

神奈川県人権教育推進協議会

第12回 人権教育学習会報告

日時：2024年6月18日（火）14:30～16:30

会場：横浜市教育会館4階ホール

演題：「目の前にいるLGBTQ+の子どもたちのために先生ができること」

講師：小野アンリさん

参加者数：182名



アンケート回収数：140枚

ご意見、ご感想をお聞かせください。（抜粋）

- 大変良かった。
 - LGBTQ+ の子たちが安心して過ごせる学校作りが少しでもできたらいいと思いました。ありがとうございました。
 - 人権問題として性の多様性について学ぶ機会がもっと学校現場に増えるとよいと思いました。
 - ここ数年で日本も学校現場もかなり理解がされてきたように思います。ですが、海外と比べるとその理解度は低いかと思いますので、学校現場の中でも伝えていくことを続けていくことや安心して過ごせる環境を整えていく必要があると思います。
- 本日は大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 学校のルールが窮屈と言う生徒が多く指導が難しいと感じていた。いない前提でルールが作られていたからではと気づくことができ、校則見直しの視点をいただけた気がしました。ありがとうございました。
 - 小野アンリさんの人柄がとても良く伝わり、まさに相手を尊重し思いやり接しているからこそ、リラックスタイムをとるという新たな発想がありました。生徒にも常に頑張れという気概でいましたが、安心安全な環境について改めて考える機会となりました。LGBTQ+ に限った話ではなく、誰もが決めつけることなく、相手を受け

止め、自分と相手のすり合わせができることが、人間としてのスキルなんだろうな
と思いました。

- とても良い講演で勉強になりました。

人権教育が教育の原点だと改めて感じました。

- 「こうじゃなければいけない」「こうしなさい」など良くある研修とは違い、自分なら
ここまでできそうだなと思える(安心)研修でした。

ありがとうございました。

- LGBTQ+だから、特別な対応をするということではなく、一人ひとりが特別な存在で
から、それぞれの気持ちを受け止めることが基本だと改めて気づきました。

ありがとうございます。

- 今まで聞いたり見たりして考えてきた LGBTQ+についての知識や情報が改めて整理
され、より近い感覚で触れることが出来たような気がします。

- 相手を尊重すること、大切だと感じました。

ありがとうございました。

ゆったりした流れのお話で、安心しながら聞くことができました。

- 悩んでいたことが多く取り込まれている内容で多くのことを学べました。

学校に戻って職員全体で共有していきたいと思います。

- 新しい視点で物事を考えることができた。LGBTQ+ の子が身近にいるという全体で教育の環境を整えたいと思った。
- LGBTQ+ についての知識として理解するより慣れるという言葉がとても印象に残りました。今日学んだことは早速子どもたちにも伝えていこうと思います。
- 当事者の方の声を聞くのは初めてだったので、とても身近に感じました。
まずできることは、知ること、目の前の子を性自認に関わらずまるごと受け止める
ことだと思いました。
- 人権研修を受ける度に、常にアップデートさせてもらっています。今回も、自分自身の意識や感覚を磨く、または今の状態に満足しないような気持ちになりました。
今日の研修では、「慣れる」という言葉は印象的でした。自分自身、「知って、相手
を受け入れる」(理解するのは、難しいがそういうのもあるんだという気持ち)ことを
常に意識して生徒と接しています。本日は、ありがとうございました。
- 講師の方自身が聞き手に配慮して、話をする前に『こう感じたらこうしていいです
よ』と事前に伝えている姿が印象的でした。伝える内容だけでなく、伝え方や姿
勢、目線などでも相手に伝わるものがあると改めて感じた。日々教壇に立つ立場だ
からこそ、LGBTQ+ Q を含めた人権感覚を持って、責任ある言動に努めなければな
らないと思った。

- 自分自身の経験談を思い返しながらお話を聴くことができました。小野さんのお話

から、目の前の子どもたち一人ひとりを気にかけることが大切だと感じました。カ

ミングアウトされた時に、その子が安心できる雰囲気、安心できる言葉など自分も

考えていかなければと感じました。私も今後も学んでいきたいと思います。ありがとうございました。

- 同じ年代で同じ地元の出身でと言うところで、アンリさんの活動を知れたこと

と、私も今できることを頑張ろうと思えた。

また LGBTQ+ に対しても知ることだったり、受け止めたり、私自身がこう思っ

ているよと言うことを伝えることも大切で、人権担当として職員にも伝える義

務があると思った。多様性の時代ですが、くくったり決めつけたりするのではなく

なくその人が安心してすごせるには、と言うことを考えていこうと思った

- 初めて人権研修に参加した特別支援学校勤務の 40 代女性です。この度は貴重な学

習会に参加させていただき、本当にありがとうございました。

LGBTQ+ 、なんとなくしかわかっていないくてどんなお話なのかとても気になりました。

小野アンリさんの話し方、内容においても今教育現場にいる自分の立場より、

様々な考えを導き出すことができました。

①LGBTQ+だけではなく、LGBTQ+であったこと

とても驚きました。クエスチョニングとクィアが加わることがとても衝撃的で「？」

に近い方々とクィアの方々を加え「Q」がプラスになる、これはお話を聞いてみないと実際わからなかつたことかもしれませんし、「Q」を大切にしなければいけないということもこれからのお話に活かせる内容であったと思います。

②信じて聞いて受け止める

このことに関しては、日々私も特別支援教育で大切にしていることの一つなのでとても共感できました。その中でも、男と女に焦点を当たるのではなく、人それぞれの性別があって良い、という考え方方が私にとっては新鮮でした。特別支援も同じで、信じて話を聞いて受け止めることが大事であることを再認識しました。ただ、子どもたちに信じてもらうためにはそれなりの時間や場面が必要になります。日々生活をしていく中で子どもたちとの関係性を築き、信頼を得ることが必要であると実感しました。

小野アンリさんの話し方、接し方、心配りに心を打たれ、とても穏やかな気持ちになつて帰ってきました。また、お話を聞きたいと思いました。

神奈川県人権教育推進協議会の皆様、そして小野アンリ様、貴重な機会をいただき、また素晴らしい研修会をご提供いただき本当にありがとうございました。また、この研修会に参加したいと思います。

- LGBTQ+ のことを改めて考えたいと思えました。

- 性の多様性は人の数だけと考えられたら、みんなもっと自由で楽になるのにと思いました。また LGBTQ+ は立ち上った人たちのチーム名なのだと、新たな見方を示していただいたことで、ひとつの文化なのだと気づきました。現実が厳しいので、いつも辛く苦しい内容の多いテーマだと思っていましたが、とても可能性を感じるお話でした。学校や社会に多様な豊かさをもたらしてくれる人たちが、苦しむことのないように考え続けたいです。

- スライドや服装など、すべてを意識されてつくられていて関心しました。
- LGBTQ+ については、これまで何度も何度か研修や講演を聞いてきましたが、さらに理解を深めることができました。お話とスライドがとても分かりやすかったです。小野先生が言っていたように、常に勉強を続けて、情報や知識をアップデートする必要があると切に感じました。
- 教師が相談しやすい相手であることが大切だと感じました。一度々 LGBTQ+ について肯定的な話をして「この先生なら話してみてもいいかも」と感じてもらえる空気づくりを心がけていきたい。
- 教師の発言って本当に破壊力があるので、LGBTQ+ に限らず、人権意識を常に持ち続けていかなければいけないと思いました。
- 今まで気づかなかったことがたくさんあり、本当に学びにつながりました。ありがとうございました。

- ありがとうございました。校内の環境について考えてみたいと思いました。
-
- 自分が知りたいことを具体的に知ることができた。
- LGBTQ+ の詳しいことを知れた。「理解ではなく慣れる」を大事にしたい。LGBTQ+ の児童がハドルなく過ごせるようにしていきたい。
- 難しい問題だし、言葉も複雑ですが、分かりやすくお話ししていただきよかったです。小学校では体育の更衣は男女で分けていますが、これって LGBTQ+ の子にとってどうなんだろうって思いました。低学年はちょっと悩み感とかなかなか察知するは難しいと感じます。人間て複雑なんだなあと思いました。
- 学校に LGBTQ+ について悩む児童がいた場合の教師としての心構えを知ることができた。
- LGBTQ+ だけでなく、一人ひとりがその子らしく安心して過ごせるように大切に関わっていきたいと思いました。
- 自分のクラスにも LGBTQ+ の子がいたので、今日のお話がとてもためになりました。「信じて聞いて受け止める」ことや個別対応の余地を考えていくこと、これからも意識していきたいです。

- 知っていたこと、新たな知識として得られたこと様々ありましたが、子どもをよく見て聞いて、受け止められる土台を教師側にもつくっていくことから始めていきました。
- 理解するように慣れるといった言葉が心に残りました。受け入れができるような人になりたいと思いました。LGBTQ+の子どもたちが生活していく社会・学校が過ごしやすいものになるよう、自分自身ができることを考え続けていきたいです。